

校種	中・高・特中・特高
受験番号	

⑤ 中学校・高等学校 国語 解答例



1点×6		6点		1点×4		6点		6点	
(一)		(二)		(三)		(四)		(五)	
④	抑揚	⑤	獣	ア	×	イ	○	ウ	○
①	民衆	②	耐	イ	○	ウ	○	エ	○
⑥	拒	③	地平	エ	○				

動詞「読み解く」の未然形と、助動詞「れる」の連体形と、助動詞「ようだ」の連体形

(七) 「言葉」は文字や声で感覚できる言語の意味、また「コトバ」は私たちが感覚するものすべての意味で筆者は文章中で区別して用いている。

(六) 私(例) 亡
 と、 た き
 書 ち 者
 き は た
 得 コ ち
 な ト を
 か バ お
 っ に も
 た よ う
 こ り、
 と、 声
 を 人 に
 享 が な
 受 書 ら
 す か な
 る かな
 こ こ か
 と こ か
 。 と っ
 で た
 、 こ

(五) 亡
 き 者
 た ち
 を おも
 う、声
 に な
 ら ない
 呻 息

(四) そ の 人 が 生 きて きた 言葉 で 語る こと 。
 よ う に、 借 り っ て き た よ う な 言葉 を 用 い ず に、
 悲(例) し み を 生 きて る と き に は 真 実 を 覆 い 隠 さ ない

(三) ア × イ ○ ウ ○ エ ○

(二) 動詞「読み解く」の未然形と、助動詞「れる」の連体形と、助動詞「ようだ」の連体形

(一) ④ 抑揚 ⑤ 獣 ⑥ 拒 ① 民衆 ② 耐 ③ 地平

⑤ 中学校・高等学校 国語 解答例



2点×2

4点

1点×2

5点

5点

(一)	あ	<p>(例) 自分自身を点検すれば、道業(仏道修行)を成就しないということはないだろう。</p>		
	い			
(二)	<p>(例) 生まれつき賢い人は、人に教えられるのを待たず、自然と仁義を守り、きわめて愚かな人は、どんなに教えても従わない。</p>			
	え	すなわ	お	よ
(三)	<p>(例) 生徒は助動詞の「なり」を活用語の終止形(ラ変型は連体形)に接続する伝聞・推定の助動詞と捉えたため、「私の師のようだ」と誤訳した。この場合、「なり」は体言に接続しているため、断定の助動詞であることから、「私の師である」と訳すのが正しい。</p>			
(四)	<p>(例) 人はともにいる人の影響を受けやすいので特別に優れていない人と慣れ親しむのは無意味である。世の中の人は、悦びのあるときは共に連れ添い、恨みがあるときは妬み、裕福なときは近づいてくるが、貧しいときは遠ざかり、どんなに深い付き合いの友でも中有の旅を訪ねていくことはない。唯一善知識は仏道に入る頼みとなるため、善知識こそ友とし慣れ親しむべきである。</p>			
(五)	<p>(例) 人はともにいる人の影響を受けやすいので特別に優れていない人と慣れ親しむのは無意味である。世の中の人は、悦びのあるときは共に連れ添い、恨みがあるときは妬み、裕福なときは近づいてくるが、貧しいときは遠ざかり、どんなに深い付き合いの友でも中有の旅を訪ねていくことはない。唯一善知識は仏道に入る頼みとなるため、善知識こそ友とし慣れ親しむべきである。</p>			

⑤ 中学校・高等学校 国語 解答例



1点×4	3点	4点	2点	4点	3点	4点	3点
(一)	(二)	(三)	(四)	(五)			
a	未だ当に学ぶべからず、	エ	下学	①	②		
わずかに		(例) 上達とは努力して下学を学ぶうちに自然と到達できる境域であるため、別に上達の域に達する方法を尋ねる必要がないから。			(例) 「不必別尋箇上達の工夫」は、「否定語＋副詞」の語順なので、否定語が副詞の示す内容を部分的に否定する部分否定の句形である。部分否定では、「必ずしも」と読んで、全部否定との意味の違いを明確にする必要があるから。		
b							
ただ							
c							
ともに	d	より					

校種
中・高・特中・特高
受験番号

⑤ 中学校・高等学校 国語 解答例

四

(中学校受験者のみ解答すること)

2点×5

(一)	
d	a
か	う
e	b
し	こ
	c
	け

4点

(二)
(例) 自分の立場や考えとそれを支える根拠の整合性を吟味し、聞き手を意識しながら話す事柄の順序などの構成を考えること。

6点

(三)
(例) 「結論を導く」とは、一定の結論に向かって考えをまとめることである。「合意形成に向けて」とは、立場や考えの違いを認めつつ納得できる結論を目指すことである。 どちらにおいても互いの立場や考えの違いを認めつつ話し合うことが重要である。

校種

中・高・特中・特高

受験番号

⑤ 中学校・高等学校 国語 解答例

五

(高等学校受験者のみ解答すること)

2点×5

(一)	
d	a
か	け
e	b
す	そ
	c
	う

4点

(二)
<p>(例) それぞれの文章の種類に固有の特徴を考慮し、書き手の主張に対して資料がどのような役割を果たしているか理解すること。</p>

3点

(三)	
①	②
<p>(例) 賛否が分かれる文章や、対立する視点をもつ文章を読み比べて比較することによって、それぞれの文章がもつ論理の共通点や相違点を整理して論じることができる。</p>	<p>(例) 読み比べることによって得た情報を踏まえて、根拠をもって論じたり批評したりするように指導しなければならない。</p>

3点